

平成21年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会

報 告 書

平成21年12月10日

I 報告書の作成にあたって

本報告書の作成にあたっては、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成することに特に留意した。

報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会教育研究室「算数・数学学習指導研究委員会」及び「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

Ⅱ 調査の概要

1 調査の目的

- ア) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

5 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

) 主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

) 主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

) 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

) 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

6 調査期日

平成21年4月21日(火)

7 4月21日に調査を実施した学校数・児童生徒数

(1)実施学校数

	小学校		実施率(%)	中学校		実施率(%)
	調査対象者 在籍学校数	実施学校数		調査対象者 在籍学校数	実施学校数	
全国(国公立)	21,800	21,643	99.3	10,960	10,258	93.6
全国(公立)	21,527	21,482	99.8	10,171	9,851	96.9
秋田県(公立)	257	257	100.0	132	132	100.0
仙北市教育委員	7	7	100.0	5	5	100.0

(2)実施児童生徒数

小学校児童数	児童数(人)				
	国語A	国語B	算数A	算数B	質問紙
全国(国公立)	1,150,061	1,149,850	1,150,097	1,149,876	1,149,803
全国(公立)	1,137,808	1,137,598	1,137,844	1,137,624	1,137,551
秋田県(公立)	9,200	9,200	9,200	9,199	9,199
仙北市教育委員会	244	244	244	244	243

中学校生徒数	生徒数(人)				
	国語A	国語B	数学A	数学B	質問紙
全国(国公立)	1,077,333	1,077,767	1,077,950	1,077,972	1,077,221
全国(公立)	1,033,291	1,033,703	1,033,885	1,033,909	1,033,163
秋田県(公立)	10,076	10,074	10,072	10,068	10,067
仙北市教育委員会	237	236	237	238	239

Ⅲ 結果

1 教科に関する調査の結果

(1)概要

本調査における全国及び秋田県の平均正答率と仙北市全体の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学のそれぞれ「A：主として知識」及び「B：主として活用」の区分で比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分の視点から比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

全国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、表1にあるように、仙北市の小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学の学習状況は「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。

全国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目の全てで仙北市が上回っている。

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年は国語A・国語B、算数A・算数Bの全てで、中学校3年は国語Bで仙北市が上回っている。

仙北市の平均正答率をみると、小学校6年算数A、中学校3年国語A及びBが良好な状況である。

【課題】

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年数学Bに課題がある。

仙北市の「国語A」↔「国語B」、「算数A」↔「算数B」及び「数学A」↔「数学B」の平均正答率の格差をみると、全国及び秋田県の格差よりも小さい。の結果に伴い、中学校3年数学は全国及び秋田県の格差よりも大きく課題がある。

表 1 : 全国及び秋田県の平均正答率との比較 (教科・問題別)

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6年生	国語A:主として知識	全国(公立)	66.9%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	75.3%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	50.5%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	60.4%	概ね満足できる状況
	算数A:主として知識	全国(公立)	78.7%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	86.2%	概ね満足できる状況
算数B:主として活用	全国(公立)	54.8%	十分満足できる状況	
	秋田県(公立)	63.7%	概ね満足できる状況	
中学校 3年生	国語A:主として知識	全国(公立)	77.0%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	82.3%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	74.5%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	81.8%	概ね満足できる状況
	数学A:主として知識	全国(公立)	62.7%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	68.8%	概ね満足できる状況
数学B:主として活用	全国(公立)	56.9%	概ね満足できる状況	
	秋田県(公立)	63.4%	概ね満足できる状況	

表 1 の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、表 2 の表現にしたがって示した。

表 2 : 表 1 の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現 (以下の表同じ)

	階 層 区 分	表 現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +5.9%以下～-5.9%以上であるもの	おおむね満足できる 状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6%以下であるもの	改善が必要な状況

表 2 は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第 3 条 (別表 2) による。

(2)設問分類・区分別集計結果から

本調査における全国及び秋田県の「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」別の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

表3 - (1) ~ 表3 - (8) にあるように、「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目において、全国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較してみると、全ての項目で「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。

同様に全国の平均正答率と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。

ア)「小学校6年国語A」では、「学習指導要領の領域」の4区分、「評価の観点」の5区分、「問題形式」の3区分の計12区分のうち、9区分が「十分満足できる状況」である。

イ)「小学校6年国語B」では、12区分全てが「十分満足できる状況」である。

ウ)「小学校6年算数A」では、8区分のうち、7区分で「十分満足できる状況」である。

エ)「小学校6年算数B」では、9区分全てが「十分満足できる状況」である。

オ)「中学校3年国語A」では、11区分のうち、2区分が「十分満足できる状況」である。

カ)「中学校3年国語B」では、8区分全てが「十分満足できる状況」である。

キ)「中学校3年数学A」では、7区分のうち、1区分が「十分満足できる状況」である。

ク)「中学校3年国語B」では、8区分全てが「十分満足できる状況」である。

同様に秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較してみると、小学校6年算数Bの4区分が「十分満足できる状況」、中学校3年数学Bの1区分が「改善が必要な状況」で、残りの区分は全て「概ね満足できる状況」である。

仙北市の状況の中で小学校6年については以下のことが言える。

ア)「国語」については、「A：主として知識」では「学習指導要領の領域」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」が、「評価の観点」の「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」が、「問題形式」の「選択式」「記述式」が良

好な状況である。

イ)「算数」については、「A：主として知識」では「学習指導要領の領域」の「数と計算」「量と測定」「図形」が、「評価の観点」の「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」が、「問題形式」の「選択式」「記述式」が良好な状況である。また、「B：主として活用」では、「評価の観点」の「数量や図形についての知識・理解」が良好な状況である。

仙北市の状況の中で中学校3年については以下のことが言える。

ア)「国語」については、「A：主として知識」では、「学習指導要領の領域」の「話すこと・聞くこと」「読むこと」が、「評価の観点」の「話す・聞く能力」「読む能力」が、「問題形式」の「短答式」が良好な状況である。また、「B：主として活用」では、「学習指導要領の領域」の「書くこと」「読むこと」が、「評価の観点」の「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」が、「問題形式」の「短答式」「記述式」が良好な状況である。

イ)「数学」については、「B：主として活用」では、「評価の観点」の「数量・図形などについての知識・理解」が特に良好な状態である。

【課題】

秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から比較した場合、次のような課題がある。

ア) 中学校3年「国語」「A：主として知識」を「学習指導要領の領域」でみると、「言語事項」に、「評価の観点」でみると「言語のについての知識・理解・技能」に、「問題形式」でみると「短答式」に課題がある。

イ) 中学校3年「数学」「A：主として知識」を「学習指導要領の領域」でみると、「数量関係」に、「評価の観点」でみると「数量や図形についての知識・理解」に、「問題形式」でみると「選択式」に課題がある。

中学校3年「数学」「B：主として活用」を「学習指導要領の領域」でみると、「数量関係」に、「評価の観点」でみると「数学的な見方や考え方」「数学的な表現・処理」に、「問題形式」でみると「選択式」「記述式」に課題がある。

仙北市の状況の中では以下のことが言える。

ア) 小学校6年では、「国語」「B：主として活用」の「学習指導要領の領域」の「書くこと」に、「評価の観点」の「書く能力」に、特に課題がある。

イ) 中学校3年では、「数学」「B：主として活用」の「学習指導要領の領域」の「数量関係」に、「問題形式」でみると「記述式」の問題に特に課題がある。

表3 - (1) : 「小学校6年国語A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	1	79.4	68.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと	4	89.9	85.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	2	74.4	68.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	12	69.2	64.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	1	79.4	68.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	1	79.4	68.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書く能力	4	89.9	85.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	2	74.4	68.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	12	69.2	64.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問 形 式	選択式	5	84.4	80.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	12	71.2	65.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	1	79.4	68.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (2) : 「小学校6年国語B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	5	71.1	61.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと	2	20.9	14.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	3	69.0	56.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	2	70.7	59.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	6	56.5	46.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	5	71.1	61.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書く能力	2	20.9	14.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	3	69.0	56.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	2	70.7	59.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問 形 式	選択式	2	75.9	65.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	2	56.6	48.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	6	56.5	46.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (3) : 「小学校6算数A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指導領域要領	数と計算	9	87.3	82.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	量と測定	3	85.7	78.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	図形	3	89.9	81.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	3	79.3	64.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
の評価観点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	0				
	数量や図形についての表現・処理	12	85.4	77.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	6	87.6	80.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問題形式	選択式	5	84.7	76.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	13	86.7	79.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (4) : 「小学校6算数B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指導領域要領	数と計算	6	64.2	55.8	十分満足できる状況	十分満足できる状況
	量と測定	6	68.6	59.9	十分満足できる状況	十分満足できる状況
	図形	4	66.2	56.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	4	64.4	56.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
の評価観点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	10	56.3	46.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての表現・処理	4	82.3	73.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	0				
問題形式	選択式	2	76.0	68.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	7	71.3	63.7	十分満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	5	48.3	36.8	十分満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (5) : 「中学校3国語A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指導領域要領	話すこと・聞くこと	4	89.8	86.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	3	73.0	64.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	10	81.3	75.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語事項	17	81.6	76.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
の評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0				
	話す・聞く能力	4	89.8	86.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	3	73.0	64.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	10	81.3	75.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	17	81.6	76.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題形式	選択式	19	79.8	76.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	14	85.6	78.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (6) : 「中学校3年国語B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指導領域要領	話すこと・聞くこと	0				
	書くこと	5	81.7	72.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	11	81.8	74.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語事項	0				
の評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	81.0	70.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	0				
	書く能力	5	81.7	72.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	11	81.8	74.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	0				
問題形式	選択式	3	75.8	70.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	3	87.9	82.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	5	81.7	72.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

表3 - (7) : 「中学校3年数学A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の 指 導 要 領 の 領 域	数と式	11	72.8	67.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	11	69.8	64.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	11	63.8	56.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な方 方や考え方	0				
	数学的な表現・処理	9	71.3	63.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	24	67.8	62.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	20	65.9	60.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	13	73.3	66.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

表3 - (8) : 「中学校3年数学B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答 率(公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の 指 導 要 領 の 領 域	数と式	3	68.2	61.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	6	63.6	57.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	6	60.7	54.1	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な方 方や考え方	12	59.0	52.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数学的な表現・処理	2	76.6	70.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	1	89.7	85.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	6	67.6	61.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	75.7	70.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	48.5	40.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

(3)各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて示す。

①小学校6年「国語」A:主として知識について

ア)「設問番号2-1及び2-2」「ローマ字で書く・ローマ字を読む」では、「ひらがな表記されたものを正しく書く」「ローマ字で表記されたものを正しく読む」に特に課題がある。また、他よりも比較的無回答率が高い。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号8」「接続語を使って一文を二文に分けて書く」では、「文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号9」「毛筆の下書きについて書き直す内容を書く」では、「文字の大きさや配列に注意して書く」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「言語事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

②小学校6年「国語」B:主として活用について

ア)「設問番号1一」「報告文を読み、メモの中に調べた内容の一つを書く」では、「調べた内容を見通して必要なことがらを整理する」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「書く能力」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号1二」「報告文のまとめとして、調べて分かったことを書く」では、「目的や意図に応じて事象や意見などを関係付けながら書く」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」及び「書く能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号2二」「『そうじゃ整とんによく取り組んでいる』とする立場から自分の考えを発表する」では「自分の立場や意図を明確にして話し合う」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」及び「話す・聞く能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

③小学校6年「算数」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号7」「200人のうち80人が女子のとき、女子の人数の割合は、全体の何%か選ぶ」では、「百分率を求めることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数量や図形についての表現・処理」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

④小学校6年「算数」**「B:主として活用」**について

ア)「設問番号3(3)」「2種類の品物を買うとき、与えられた条件では、ハンカチを買うと、もう1種類の品物が買えないわけを書く」では「情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号5(3)」「4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの大小関係を捉え、判断のわけを書く」では「基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述することができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

⑤中学校3年「国語」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号7ー」「短歌について、言葉のつながりや意味の上から切れ目を付けたものとして適切なものを選択する」では「短歌の形式に従って、意味のまとまりをつかむ」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号8三ア」「適切な語句を選択する(急いでいるときは、靴をはくのももどかしい)」では、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「言語事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

⑥中学校3年「国語」**「B:主として活用」**について

すべての設問に対して、概ね良好な結果である。

⑦中学校3年「数学」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号3(3)」**「一元一次方程式をつくるために、着目する数量を考える」**では**「一元一次方程式をつくって問題を解決するために、2通りに表せる数量に着目することができる」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数学的な表現・処理」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号4(2)」**「折り目の線について、正しい作図を選ぶ」**では**「作図と線分の垂直二等分線について理解している」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号6(1)」**「同位角の位置にあるものを選ぶ」**では**「同位角の意味について理解している」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

エ)「設問番号8」**「三角形の内角の和が 180° であることの証明について正しいものを選ぶ」**では**「証明の意義について理解している」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

オ)「設問番号10(1)」**「反比例を表した事象を選ぶ」**では**「具体的な事象で、2つの数量の関係が反比例の関係になることを理解している」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

カ)「設問番号12」**「 $2x + y = 6$ 」の解を座標点の集合がどのようになるか選ぶ」**では**「二元一次方程式の会を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している」**に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

キ)「設問番号 1 3 (2)」「大小のサイコロを同時に投げるとき、和が 7 になる確率を求める」では「事象の起こる確率を求めることができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な表現・処理」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

⑧中学校3年「数学」**「B:主として活用」**について

ア)「設問番号 1 (2)」「『紋切り遊び』で 1 回折りのできる模様として、正しいものを選ぶ」では「事柄の特徴を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量・図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 3 (3)」「蛍光灯と白熱球の総費用について、2 つの総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する」では「事象を数学的に解釈し、問題可決の方法を数学的に説明することができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号 4 (1)」「2 つの線分が平行になることを三角形の合同を利用して証明する」では「方針にもとづいて証明することができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

また、この設問は約 2 割の生徒が無回答で、他と比較しても無回答率が高い。

エ)「設問番号 5 (3)」「『箱を変更する』と決めてゲームを行う方が、当たりやすいという予想を確かめる実験方法として、最も適切なものを選ぶ」では「不確定な事象についての予想を実験で確かめるための方法を考えることができる」に特に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1)概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市全体の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、いくつかの課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向がみられる。

特に「規範意識・礼儀・思いやり・他者理解」「基本的生活習慣・基本的学習習慣」「家庭での生活」「地域への愛着・地域での生活」「学習に対する意欲・学習の有用感」に望ましい傾向があるといえる。

(2)小学校6年生にみられる望ましい傾向

①仙北市の傾向

小学校6年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、90%を超えた質問は、77の質問中22の設問であった。（昨年、14項目）

「肯定的回答」の占める割合が90%を超えた質問を分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「学習に対する意欲・学習の有用感」「学校生活」に望ましい傾向がみられる。

（質問：32）学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

（質問：33）学校で好きな授業はありますか

（質問：53）国語の勉強は大切だと思いますか

（質問：56）国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

（質問：62）解答を文章で書く問題についてどのように（最後まであきらめないうで）解答しましたか

（質問：64）算数の勉強は大切だと思いますか

（質問：67）算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

（質問：73）言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、どのように（最後まであきらめないうで）解答しましたか

（質問：76）解答時間は十分でしたか（算数A）

イ)「規範意識・思いやり・向上心・社会貢献」に望ましい傾向がみられる。

（質問：5）ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか

（質問：8）将来の夢や目標を持っていますか

（質問：25）携帯電話の使い方について家の人と約束したことがありますか

（注：持っていないも含む）

- (質問：37) 学校のきまりを守っていますか。
- (質問：38) 友達との約束を守っていますか
- (質問：41) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか
- (質問：42) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- (質問：43) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ウ) 「基本的生活習慣・基本的学習習慣」「家庭生活」に望ましい傾向が見られる。
 - (質問：1) 朝食を毎日食べていますか
 - (質問：4) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(午後10時より前)
 - (質問：22) 家の人と普段(月～金曜日)夕食を一緒に食べていますか
 - (質問：27) 家で学校の宿題をしていますか
- エ) 「地域での生活」に望ましい傾向がみられる。
 - (質問：40) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

②全国との比較から

表4 は、児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものを、その差が大きい順に示している(表の網がけの部分)。県との割合との差は参考のために示した。

これによると、仙北市の児童は全国と比較して全体として次のような望ましい傾向がある。

- ア) 「学習への意欲」等に望ましい傾向がみられる。
 - (質問：74) 解答時間は十分でしたか(国語A)
 - (質問：58) 国語の授業で意見などを発表するときうまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか
 - (質問：44) 「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか
 - (質問：68) 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか
 - (質問：46) 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか
- イ) 「基本的生活習慣・基本的学習習慣」に望ましい傾向がみられる。
 - (質問：29) 家で学校の授業の復習をしていますか
 - (質問：31) 家でテストで間違えた問題について間違えたところを後で勉強していますか
 - (質問：28) 家で学校の授業の予習をしていますか
 - (質問：30) 家で苦手な教科の勉強をしていますか
 - (質問：26) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ウ) 「地域に対する興味・関心、愛着」に望ましい傾向がみられる。
 - (質問：35) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか
 - (質問：36) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

表4 児童質問紙調査のうち全国と比較して肯定的な回答の占める割合が高い事項

質問番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市と全国 との肯定的回 答率の差(ポイント)
(29)	家で学校の授業の復習をしていますか	全国の割合	46.0	53.9	+ 31.1
		県の割合	83.2	16.8	- 6.1
(35)	今住んでいる地域の歴史や自然について 関心がありますか	全国の割合	47.2	52.8	+ 24.1
		県の割合	57.1	42.9	+ 14.2
(74)	解答時間は、十分でしたか (国語A)	全国の割合	56.6	43.0	+ 20.5
		県の割合	62.9	37.1	+ 14.2
(31)	家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか	全国の割合	49.5	50.0	+ 16.5
		県の割合	68.6	31.2	- 2.6
(36)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	全国の割合	62.4	37.5	+ 15.8
		県の割合	78.1	21.9	+ 0.1
(28)	家で学校の授業の予習をしていますか	全国の割合	37.5	62.4	+ 14.6
		県の割合	54.2	45.8	+ 0.1
(30)	家で苦手な教科の勉強をしていますか	全国の割合	47.9	52.0	+ 14.4
		県の割合	70.8	29.1	- 8.5
(58)	国語の授業で意見などを発表するときうまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	全国の割合	56.3	43.6	+ 12.2
		県の割合	66.0	34.0	+ 2.5
(44)	「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか	全国の割合	76.0	23.8	+ 11.7
		県の割合	82.3	17.7	+ 5.4
(68)	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	全国の割合	64.0	35.7	+ 11.0
		県の割合	74.4	25.5	+ 0.6
(46)	普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか	全国の割合	53.0	46.9	+ 10.5
		県の割合	59.0	40.9	+ 4.5
(26)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	全国の割合	54.7	45.2	+ 10.5
		県の割合	68.1	31.8	- 2.9

「肯定的回答」とは、質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合。「否定的回答」とは、質問紙の選択肢のうち「あまりない」と「全くない」もしくは、「あまりしていない」と「全くしていない」あるいは、「どちらかといえば、当てはまらない」と「当てはまらない」等を合計した割合。(以下同じ)

「肯定的回答」と「否定的回答」を合計しても、四捨五入の関係や「その他」「無回答」の割合によって、必ずしも100.0には、ならない。(以下同じ)

(3)小学校6年生の課題と考えられる傾向

ここでは、児童質問紙調査のうち全国の結果と仙北市を比較して、課題と考えられる傾向について示す。なお、平成20年度の課題と関連するものについては、そのデータを付した。

①学校の授業以外の学習時間について

表5 は学校の授業以外の学習時間を問うたものである。この中で、「全く学習しない児童の割合」は、全国と比較して2.4ポイント少ない。

「1時間以上学習する児童の割合」は、全国と比較して10.8ポイント下回っており、「学習時間が1時間より少ない児童の割合」は全国と比較して13.4ポイント上回っている。

仙北市の小学校6年生は全国と比較した場合、授業時間以外に1時間以上の学習をする児童の割合は、増加傾向にあるものの、まだまだ少ないと言える。

表5 学校の授業時間以外の学習時間の全国との比較

設問 (16)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか					
区 分 (年度比較)	A：1時間以上学習する 児童の割合		B：学習時間が1時間より少ない児童の割合		C：全く学習しない児童の割合	
	H20	H21	H20	H21	H20	H21
全国の割合	56.1	57.2	39.3	38.7	4.5	4.0
県の割合	56.9	61.2	41.6	37.7	1.6	1.0
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	-15.4	-10.8	+19.1	+13.4	-3.6	-2.4
	増加傾向		減少傾向		増加傾向	

※表のAは選択肢の「1、3時間以上」「2、2時間以上3時間より少ない」「3、1時間以上2時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

※表のBは選択肢の「4、30分以上1時間より少ない」「5、30分より少ない」を選択した割合を合計したもの

②学校図書館、地域の図書館の利用について

表6 は学校及び地域の図書館の利用について問うたものである。この中で、「年に数回程度、ほとんど、または行かない児童の割合」は、全国と比較して11.0ポイント上回っている。

「週に1回以上行く児童の割合」及び「月に1～3回行く児童の割合」は、全国と比較して、それぞれ4.2ポイント、6.3ポイント下回っている。

仙北市の小学6年生は全国と比較した場合、図書室・図書館利用する児童の割合がたいへん少ないといえる。

表6 学校及び地域の図書館の利用回数の全国との比較

質問 (20)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか(H21新設)		
区分	A:週に1回以上行く児童の割合	B:月に1~3回行く児童の割合	C:年に数回程度または全く行かない児童の割合
全国の割合	18.2	24.3	57.1
県の割合	16.0	22.2	61.4
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	-4.2	-6.3	+11.0

※表のAは選択肢の「1、だいたい週に4回以上行く」「2、週に1~3回程度行く」を選択した割合を合計したものの

※表のCは選択肢の「4、年に数回程度行く」「5、ほとんど、または、全く行かない」を選択した割合を合計したものの

③ 普段、テレビゲームをやる時間について

表6 は家庭でテレビゲームをやる時間を問うたものである。この中で、「テレビゲームを2時間以上する児童の割合」は全国と比較して2.0ポイント多い。

仙北市の小学6年生は、全国と比較して、減少傾向にあるものの、テレビゲームをやる時間が2時間以上と回答した児童の割合が高いといえる。

表7 普段、テレビゲームをやる時間の全国との比較

質問 (13)	普段(月~金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか					
区分 (年度比較)	A:2時間以上の児童の割合		B:2時間より少ない児童の割合		C:全く見たりしない児童の割合	
	H20	H21	H20	H21	H21	H20
全国の割合	23.9	23.4	58.5	59.0	17.5	17.7
県の割合	23.4	23.1	60.9	60.7	15.7	16.2
仙北市と全国との回答率の差(ポイント)	+6.0	+2.0	-2.4	+5.0	-3.5	-7.0
	減少傾向		増加傾向		減少傾向	

※表のAは選択肢の「1、4時間以上」「2、3時間以上4時間より少ない」「3、2時間以上3時間より少ない」を選択した割合を合計したものの

※表のBは選択肢の「4、1時間以上2時間より少ない」「5、1時間より少ない」を選択した割合を合計したものの

(4)中学校3年生にみられる望ましい傾向

①仙北市の傾向

中学校3年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」もしくは、「している」と「どちらかといえば、している」あるいは、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、90%を超えた質問は、75の質問中16の設問であった。

「肯定的回答」の占める割合が90%を超えた質問を分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「規範意識・礼儀・思いやり・他者理解」に望ましい傾向がみられる。

(質問：37)学校の規則を守っていますか

(質問：38)友達との約束を守っていますか

(質問：41)人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

(質問：42)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

イ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」「家庭での生活」に望ましい傾向が見られる。

(質問：1)朝食を毎日食べていますか

(質問：4)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

(質問：27)家で学校の宿題をしていますか

ウ)「地域への愛着・地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(質問：40)近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

エ)「学習に対する意欲・学習の有用感」に望ましい傾向がみられる。

(質問：53)国語の勉強は大切だと思いますか

(質問：62)解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか

(質問：66)数学ができるようになりたいと思いますか

(質問：73)解答を言葉や式を使って説明する問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか

(質問：74)解答時間は十分でしたか(国語A)

オ)その他に望ましい傾向がみられるもの

自尊感情・達成感

(質問：5)ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか
学校生活

(質問：32)学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

向上心・社会貢献

(質問：43)人の役に立つ人間になりたいと思いますか

②全国との比較から

表 8 は、生徒質問紙調査のうち、全国の肯定的回答の割合と仙北市の生徒の肯定的回答の割合を比較して仙北市の割合が + 10 ポイント以上のものをその差が大きい順に示している(表の網がけの部分)。県の割合との比較は参考のために示した。これを分類してみると次のような傾向が読み取れる。

ア)「学習に対する意欲・学習の有用感等」に望ましい傾向がみられる。

(質問：48) 普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよくやっていると思いますか

(質問：55) 読書は好きですか

(質問：45) 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

イ)「地域への愛着・地域での生活」に望ましい傾向がみられる。

(質問：36) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

(質問：35) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか

(質問：40) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか

ウ)「基本的生活習慣・基本的学習習慣」に望ましい傾向が見られる。

(質問：29) 家で学校の授業の復習をしていますか

(質問：31) 家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか

(質問：30) 家で苦手な教科の勉強をしていますか

(質問：27) 家で学校の宿題をしていますか

エ)「家庭生活」に望ましい傾向がみられる。

(質問：9) 普段(月～金曜日)、何時頃起きますか

(質問：21) 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか

(質問：23) 家の人と学校での出来事について話をしていますか

表8 生徒質問紙調査のうち、全国と比較して肯定的な回答の占める割合が高い事項

質問番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市と全国 との肯定的回 答率の差(ポイント)
(29)	家で学校の授業の復習をしていますか	全国の割合	40.5	59.3	+27.8
		県の割合	71.1	28.9	-2.8
(36)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	全国の割合	37.8	62.0	+25.6
		県の割合	46.3	53.6	+17.1
(31)	家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか	全国の割合	38.1	71.4	+22.7
		県の割合	55.2	44.5	+5.6
(35)	今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか	全国の割合	23.4	76.5	+22.4
		県の割合	30.9	69.2	+14.9
(30)	家で苦手な教科の勉強をしていますか	全国の割合	41.7	58.1	+19.5
		県の割合	63.0	36.9	-1.8
(9)	普段(月～金曜日)、何時頃起きますか 7時より前に起きる生徒の割合	全国の割合	65.7	34.2	+14.4
		県の割合	83.0	16.9	-2.9
(21)	家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか	全国の割合	42.3	57.6	+2.4
		県の割合	54.3	45.7	+14.4
(48)	普通の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか	全国の割合	52.7	47.1	+13.2
		県の割合	72.3	25.6	-6.4
(55)	読書は好きですか	全国の割合	67.4	32.3	+12.6
		県の割合	76.1	23.7	+3.9
(23)	家の人と学校での出来事について話をしていますか	全国の割合	59.8	40.0	+12.3
		県の割合	63.6	36.3	+8.5
(40)	近所の人に出会ったときは、あいさつをしていますか	全国の割合	83.0	16.9	+11.2
		県の割合	85.0	15.0	+9.2
(27)	家で学校の宿題をしていますか	全国の割合	83.0	16.9	+10.4
		県の割合	91.0	9.0	+2.4
(45)	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	全国の割合	58.7	41.0	+10.0
		県の割合	68.7	31.3	0.0

(5)中学校3年生の課題と考えられる傾向

ここでは、生徒質問紙調査のうち全国の結果と仙北市を比較して、課題と考えられる傾向について示す。なお、平成20年度の課題と関連するものについては、そのデータを付した。

①学校の授業以外の学習時間について

表9 は学校の授業以外の学習時間を問うたものである。この中で、「全く学習しない生徒の割合」は全国と比較して5.6ポイント少ない。「学習時間が2時間より少ない生徒の割合」は全国と比較して27.7ポイント上回っているが、「2時間以上学習する生徒の割合」は全国と比較して22.2ポイント下回っている。

仙北市の中学校3年生は全国と比較した場合、全体として、授業時間以外に2時間以上の学習をする生徒の割合が少なく、減少傾向にあるといえる。また、学習時間が2時間より少ない生徒の割合も減少傾向にあり、全く学習しない生徒の割合が増加していることがいえる

表9 学校の授業時間以外の学習時間の全国との比較

質問 (17)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか					
区 分 (年度比較)	A：2時間以上学習する 児童の割合		B：学習時間が2時間よ り少ない児童の割合		C：全く学習しない児童 の割合	
	H20	H21	H20	H21	H20	H21
全国の割合	35.7	35.7	56.6	56.5	7.7	7.7
県の割合	24.5	24.9	72.4	72.7	3.1	2.4
仙北市と全国との回答 率の差(ポイント)	-18.2	-22.2	+30.9	+27.7	-6.1	-5.6
	減少傾向		減少傾向		増加傾向	

※表のAは選択肢の「1、3時間以上」「2、2時間以上3時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

※表のBは選択肢の「3、1時間以上2時間より少ない」「4、30分以上1時間より少ない」「5、30分以下」を選択した割合を合計したもの

②土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間について

表10 は学校が休みの日の学習時間を問うたものである。この中で、「全く学習しない生徒の割合」は全国と比較して11.8ポイント少ない。「学習時間が2時間より少ない生徒の割合」は全国と比較して18.1ポイント上回っているが、「2時間以上学習する生徒の割合」は全国と比較して6.2ポイント下回っている。

仙北市の中学校3年生は全国と比較した場合、全体として、休日に2時間以上の学習をする生徒の割合が少なく、減少傾向にあるといえる。また、全く学習しない生徒の割合が僅かに増加していることがいえる

表10 学校の授業時間以外の学習時間の全国との比較

質問 (18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強 しますか					
区 分 (年度比較)	A：2時間以上学習する 生徒の割合		B：学習時間が2時間よ り少ない生徒の割合		C：全く学習しない生徒 の割合	
	H20	H21	H20	H21	H20	H21
全国の割合	15.1	15.4	70.0	69.8	14.8	14.7
県の割合	16.2	17.1	80.0	80.3	3.7	2.6
仙北市と全国との回答 率の差(ポイント)	- 3.6	- 6.2	+ 15.7	+ 18.1	- 12.0	- 11.8
	減少傾向		増加傾向		増加傾向	

※表のAは、選択肢の「1、3時間以上」「2、2時間以上3時間より少ない」を選択した割合を合計したもの

※表のBは、選択肢の「3、1時間以上2時間より少ない」「4、30分以上1時間より少ない」「5、30分以下」を選択した割合を合計したもの

③家での授業の予習について

表11 は家での授業の予習の実施を問うたものである。この中で、「している・どちらかといえば、している生徒の割合」は全国と比較して6.6ポイント少ない。「あまりしていない・全くしていない生徒の割合」は全国と比較して6.8ポイント上回っている。

仙北市の中学校3年生は全国と比較した場合、全体として、家で学校の授業の予習をやる生徒が少ないといえる。

表11 家での授業の予習の全国との比較

質問 (28)	家で学校の授業の予習をしていますか			
区 分	肯定的回答の割合		否定的回答の割合(無回答を含む)	
	H20	H21	H20	H21
全国の割合	28.4	29.5	71.6	70.3
県の割合	36.1	36.7	64.0	63.3
仙北市と全国との回答 率の差(ポイント)	- 5.3	- 6.6	+ 5.4	+ 6.8
	減少傾向		増加傾向	

④「国語」「数学」に対する関心・意欲等について

表12 は、生徒質問紙調査のうち、関心・意欲等に関わる質問について、全国と比較したものである。(表の網がけの部分)

仙北市の中学校3年生は全国と比較した場合、全体として、ノートの書き方や使い方、数学に対する理解力に課題があるといえる。

表 1 2 「国語」「数学」に対する関心・意欲に関わる質問の全国との比較

質問番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市と全国 との肯定的回 答率の差(ポイント)
(4 9)	授業ではノートを丁寧に書いていますか	全国の割合	85.1	14.6	- 10.5
		県の割合	82.5	17.6	- 7.9
(6 5)	数学の授業の内容がよくわかりますか	全国の割合	64.9	34.6	- 8.6
		県の割合	66.1	33.7	- 9.8
(7 2)	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	全国の割合	76.8	22.5	- 8.1
		県の割合	76.4	23.4	- 7.7
(7 7)	解答時間は十分でしたか(数学B)	全国の割合	85.4	13.8	- 7.0
		県の割合	80.4	19.4	- 2.0

3 学校質問紙調査の結果

ここでは、学校質問紙調査の結果のうち、教育指導に係る観点から仙北市全体の特に顕著な傾向がみられるものについてから示す。

この項で示す表は仙北市内の各小・中学校の回答結果（学校数）を、それぞれの質問事項における回答の割合（小・中学校それぞれの全体の学校数に対して、その回答をした学校の数の割合「%」）として示してある。

(1)概要

全国の状況と比較した場合、小・中学校を通じて、放課後を利用した週1回以上の補充的な学習サポートに積極的な取り組みが行われていると言える。小学校では、学校図書館図書基準を達成している学校の割合が高く、「朝の読書」などの一斉読書を基本的に毎日取り組んでいる学校が多いといえる。中学校では特に数学においてコンピュータやインターネットを活用した授業、国語において補充的な学習の指導に積極的な取り組みが行われていると言える。

また、小・中学校を通じて、平成20年度全国学力・学習状況調査の結果の活用に積極的に取り組んでいる学校の割合が高いと言える。

小学校では、国語の補充的な学習の指導に、中学校では、国語・数学の発展的な学習の指導に課題がある。

(2)小学校の取り組みについて

①全国と比較して積極的に取り組んでいると言える事項

表13 は学校質問紙調査のうち、全国の肯定的回答の割合と仙北市の小学校の肯定的回答の割合を比較して仙北市の割合が+10ポイント以上のものをその差が大きい順に示している（表の網がけの部分）。県の割合との比較は参考のために示した。

これによると、仙北市の小学校は学力向上に対する取り組みの面で、算数の指導で実生活における事象との関連を図った授業に積極的に取り組んでいると言える。国語の指導においては、コンピュータ等を活用した授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業に積極的に取り組んでいると言える。

また、児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導、職場見学や職場体験、放課後を活用した補充的な学習サポート、特別支援教育の体制の機能、地域に対する「開かれた学校」体制について、全国と比べて肯定的回答の割合が高いと言える。

さらに、平成20年度全国学力・学習状況調査の結果については、調査問題の活用、自校の結果分析と指導計画の改善、具体的な教育指導の改善への活用、保護者や地域の人々への公表・説明について、積極的に取り組んでいると言える。

表13 全国と比較して仙北市の小学校が積極的に取り組んでいる事項

質問番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市と全国 との肯定的回 答率の差(ポイント)
(1)	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。(基本的に毎日実施した割合)	全国の割合	20.5	-	+ 50.9
		県の割合	53.7	-	+ 17.7
(4 7)	平成20年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成20年度において、第6学年や他学年の授業の中で活用しましたか	全国の割合	59.8	40.0	+ 40.2
		県の割合	95.3	4.7	+ 4.7
(4 0)	国語の指導として、教員がコンピュータ等を使って、資料等を拡大表示したり、デジタル教材を活用するなどの工夫をしていますか	全国の割合	32.8	67.2	+ 38.6
		県の割合	31.1	68.8	+ 40.3
(3 0)	児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていますか	全国の割合	69.5	30.4	+ 30.5
		県の割合	80.5	19.5	+ 19.5
(2 5)	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(週1回以上)	全国の割合	28.8	39.0	+ 28.4
		県の割合	38.1	22.6	+ 19.1
(4 9)	平成20年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか	全国の割合	72.1	27.4	+ 27.9
		県の割合	95.7	4.3	+ 4.3
(8 2)	算数の指導としての家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか	全国の割合	75.6	24.4	+ 24.4
		県の割合	94.6	5.4	+ 5.4
(7 8)	国語の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか	全国の割合	76.0	24.0	+ 24.0
		県の割合	93.8	6.2	+ 6.2
(6 5)	算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	全国の割合	61.9	38.0	+ 23.8
		県の割合	70.1	30.0	+ 15.6
(7 2)	職場見学や職場体験活動を行っていますか	全国の割合	36.2	63.6	+ 20.9
		県の割合	46.7	52.9	+ 10.4
(2 1)	学校図書館図書標準が達成されていますか	全国の割合	50.7	48.8	+ 20.7
		県の割合	42.8	56.4	+ 28.6
(6 8)	あなたの学校では、発達障害を含む障害のある児童に対して「個別の指導計画」を作成していますか	全国の割合	80.6	19.2	+ 19.4
		県の割合	89.1	10.9	+ 10.9
(8 8)	地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか	全国の割合	81.9	18.0	+ 18.1
		県の割合	95.7	4.3	+ 4.3

(6 0)	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	83.3	16.6	+ 16.7
		県の割合	89.9	10.1	+ 10.1
(4 6)	平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用しましたか	全国の割合	83.5	16.2	+ 16.5
		県の割合	96.9	3.1	+ 3.1
(4 8)	学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか	全国の割合	84.6	15.2	+ 15.4
		県の割合	96.9	3.1	+ 3.1
(5 8)	国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	全国の割合	87.5	12.5	+ 12.5
		県の割合	91.5	8.5	+ 8.5
(6 9)	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	全国の割合	74.2	25.8	+ 11.5
		県の割合	73.5	26.5	+ 12.2
(5 9)	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	全国の割合	89.1	10.9	+ 10.9
		県の割合	91.8	8.2	+ 8.2

※質問番号(1)の肯定的回答の割合は、基本的に毎日実施する学校の割合

②全国と比較して今後の検討課題と考えられる事項

表 1 4 は学校質問紙調査のうち、全国と仙北市の小学校を比較して、仙北市の小学校の肯定的回答の割合が全国よりも - 1 0 ポイントを超えて低かった事項について示したものである（表の網がけの部分）。県の割合との比較は参考のために示した。

国語において、補充的な学習の指導を行っている学校の割合が低いと言える。

表 1 4 仙北市の小学校の肯定的回答の割合が全国よりも低かった事項

質問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市と全国との肯定的回答率の差(ポイント)
(5 0)	前年度の算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	全国の割合	50.7	49.1	- 11.4
		県の割合	66.1	33.9	- 23.2
(5 1)	国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	68.9	31.0	- 11.7
		県の割合	74.7	25.2	- 17.5

(3)中学校の取り組みについて

①全国と比較して積極的に取り組んでいると言える事項

表15 は学校質問紙調査のうち、全国の肯定的回答の割合と仙北市の中学校の肯定的回答の割合を比較して、仙北市の割合が+10ポイント以上のものをその差が大きい順に上位10項目(+10以上ポイントの項目は21項目)示している(表の網がけの部分)。県の割合との比較は参考のために示した。ただし、+10ポイント以上であっても、過半数の中学校が取り組んでいないものは除いた。

これによると、仙北市の中学校の国語の指導では、補充的な学習の指導に積極的に取り組んでいる学校の割合が高い。数学の指導では、コンピュータ等を活用した授業に積極的に取り組んでいる学校の割合が高い。

また、生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えて行う活動に対しても積極的であるといえる。

さらに、平成20年度の全国学力・学習状況調査の結果を学校全体で活用すること、授業の中で活用すること、教育指導の改善に活用すること、保護者や地域の人々への公表・説明に積極的に取り組んでいる学校の割合が高い。

表15 全国と比較して仙北市の中学校が積極的に取り組んでいる事項

質問番号	質問事項	項目	肯定的 回答の 割合(%)	否定的 回答の 割合(%)	仙北市と全国と の肯定的回答率 の差(ポイント)
(43)	数学の指導として、教員がコンピュータ等を使って、資料等を拡大表示したり、デジタル教材を活用するなどの工夫をしていますか	全国の割合	14.3	85.5	+45.7
		県の割合	23.2	76.1	+36.8
(25)	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(週1回以上)	全国の割合	22.4	16.7	+37.6
		県の割合	19.6	9.0	+40.4
(49)	平成20年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか	全国の割合	68.1	31.4	+31.9
		県の割合	88.8	10.4	+11.2
(78)	数学の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか	全国の割合	70.1	29.8	+29.9
		県の割合	76.1	23.9	+23.9
(79)	数学の指導としての家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか	全国の割合	70.7	29.1	+29.3
		県の割合	87.3	12.7	+12.7
(47)	平成20年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成20年度において、第3学年や他学年の授業の中で活用しましたか	全国の割合	50.8	48.9	+29.2
		県の割合	86.6	13.4	-6.6
(56)	国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	74.1	25.8	+25.9
		県の割合	83.5	15.7	+16.5

(46)	平成20年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用しましたか	全国の割合	78.7	21.0	+21.3
		県の割合	90.3	9.7	+9.7
(48)	学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成20年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか	全国の割合	80.8	18.8	+19.2
		県の割合	91.0	9.0	+9.0
(33)	生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えていますか	全国の割合	80.9	19.9	+19.1
		県の割合	88.8	11.2	+11.2

②全国と比較して今後の検討課題と考えられる事項

表16は学校質問紙調査のうち、全国と仙北市の中学校を比較して、仙北市の中学校の肯定的回答の割合が全国よりも-10ポイントを超えて低かった事項について、その差が大きい順に下位10項目を示したものである(表の網がけの部分)。県の割合との比較は参考のために示した。

これによると、国語の指導について、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っている学校の割合、国語・数学とともに発展的な学習の指導をしている学校の割合が低いといえる。

また、外部人材の活用については、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合と、ボランティア等による授業サポート(補助)を行った学校の割合が低いと言える。

さらに、長期休業中を利用した補足的な学習サポートを実施した学校の割合、特別支援教育に対する体制づくりの割合も低いといえる。

表16 仙北市の中学校の肯定的回答の割合が全国よりも低かった事項

質問番号	質問事項	項目	肯定的回答の割合(%)	否定的回答の割合(%)	仙北市と全国との肯定的回答率の差(ポイント)
(57)	国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	50.9	49.0	-30.9
		県の割合	23.2	76.1	-36.8
(74)	国語の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか	全国の割合	69.8	30.1	-29.8
		県の割合	70.2	29.9	-30.2
(27)	長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか(休業期間中1日以上)	全国の割合	80.3	19.6	-20.3
		県の割合	91.9	8.2	-31.9
(67)	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	全国の割合	56.6	43.3	-16.6
		県の割合	58.2	41.8	-18.2
(63)	数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	全国の割合	55.5	44.4	-15.5
		県の割合	59.7	40.3	-19.7

(6 6)	あなたの学校では、発達障害を含む障害のある生徒に対して「個別の指導計画」を作成していますか	全国の割合	75.5	24.2	- 15.5
		県の割合	78.4	21.6	- 18.4
(7 2)	学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の方が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか	全国の割合	55.1	44.5	- 15.1
		県の割合	47.7	52.3	- 7.7

4 児童生徒質問紙と教科に関する調査のクロス集計から

ここでは、「児童生徒質問紙調査」の結果と「教科に関する調査」をクロス集計し、「児童生徒質問紙調査」の回答率と「教科に関する調査」の正答率との相関で仙北市全体の特
に顕著な傾向がみられるものについて示す。

具体的には、「児童生徒質問紙調査」の「基本的な生活習慣」「基本的な学習習慣」「家庭での生活」に係る質問について、「1 している・当てはまる(強い肯定)」「2 どちらかといえば、している・どちらかといえば、当てはまる(弱い肯定)」「3 あまりしていない・あまり当てはまらない(弱い否定)」「4 全くしていない・当てはまらない(強い否定)」の4つの選択肢ごとに、「国語A」「国語B」「算数・数学A」「算数・数学B」の4区分の平均正答率を見て、4区分の全てで選択肢の「4」「3」「2」「1」の順に平均正答率が高くなる傾向にあるものを相関関係があると判断し、これを以下に示す。

(1)概要

仙北市の小学校6年生では、図1 図2 にあるように「質問67：算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法で考えますか。」及び「質問番号72：算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか。」で相関関係が見られた。

図1 「質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関(小：質問番号67)

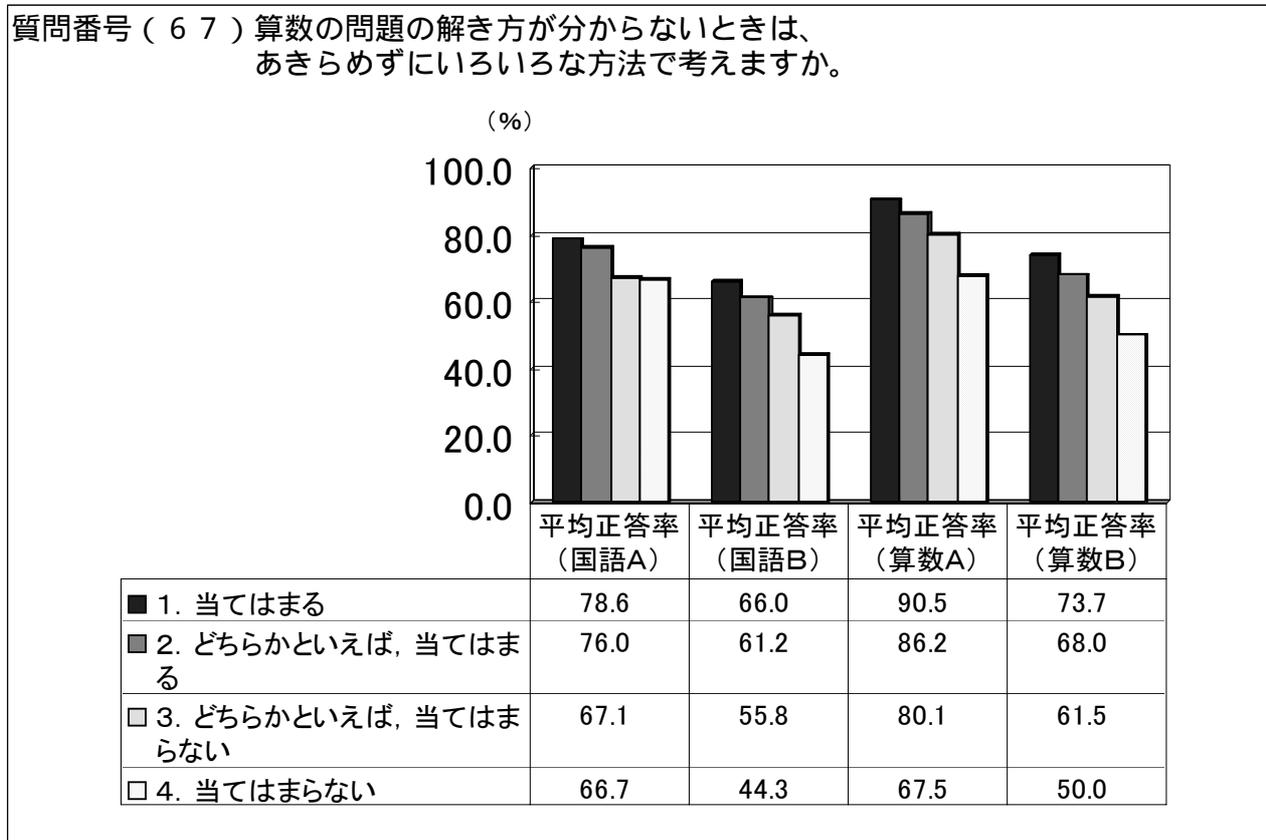
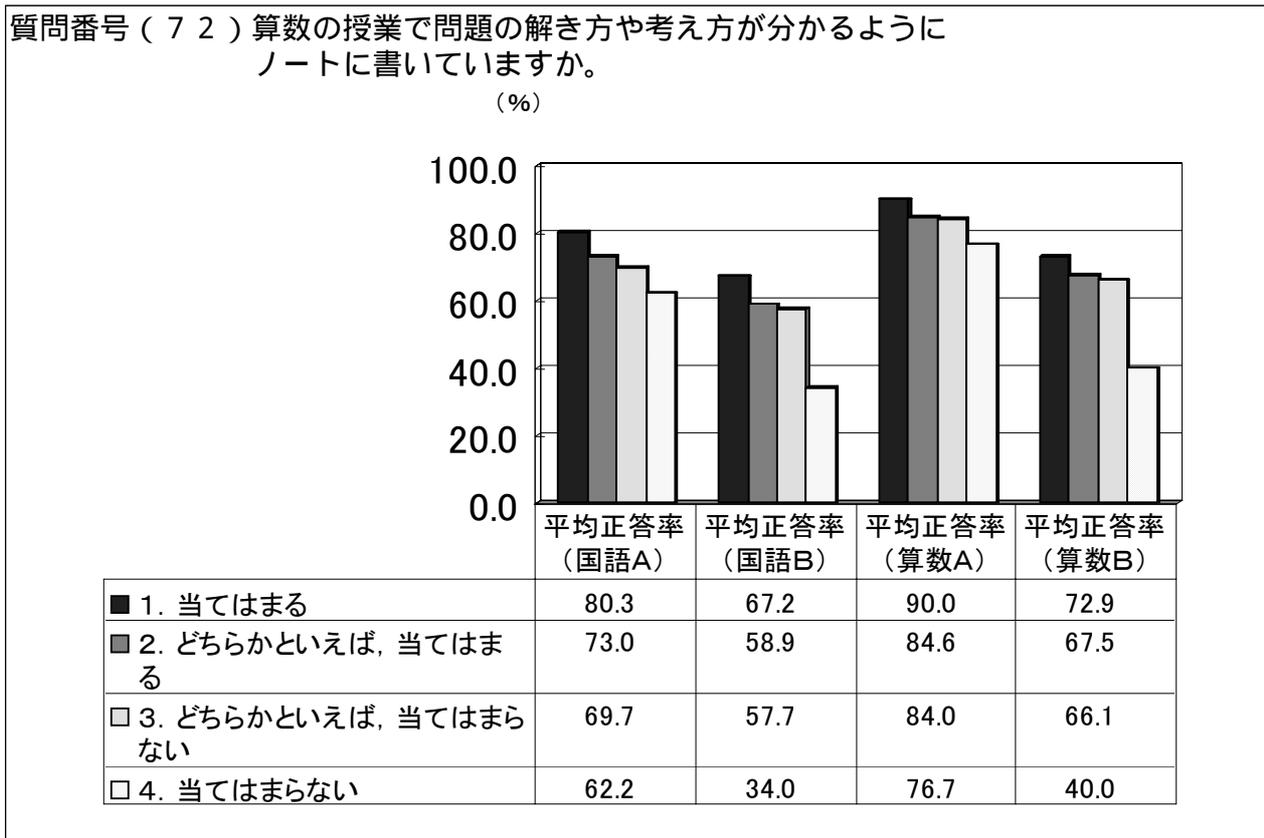


図2 「質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関（小：質問番号72）



また、中学校3年生では、図3 図4 にあるように「質問番号37：「学校の規則を守っていますか。」、「質問番号62：解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか。」で相関関係が見られた。

なお、質問番号62は、選択肢が「最後まで解答を書くよう努力した」「途中であきらめたものがあった」「書く問題は全く解答しなかった」の3項目である。

図3 「質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関（中：質問番号37）

質問番号（37）学校の規則を守っていますか。

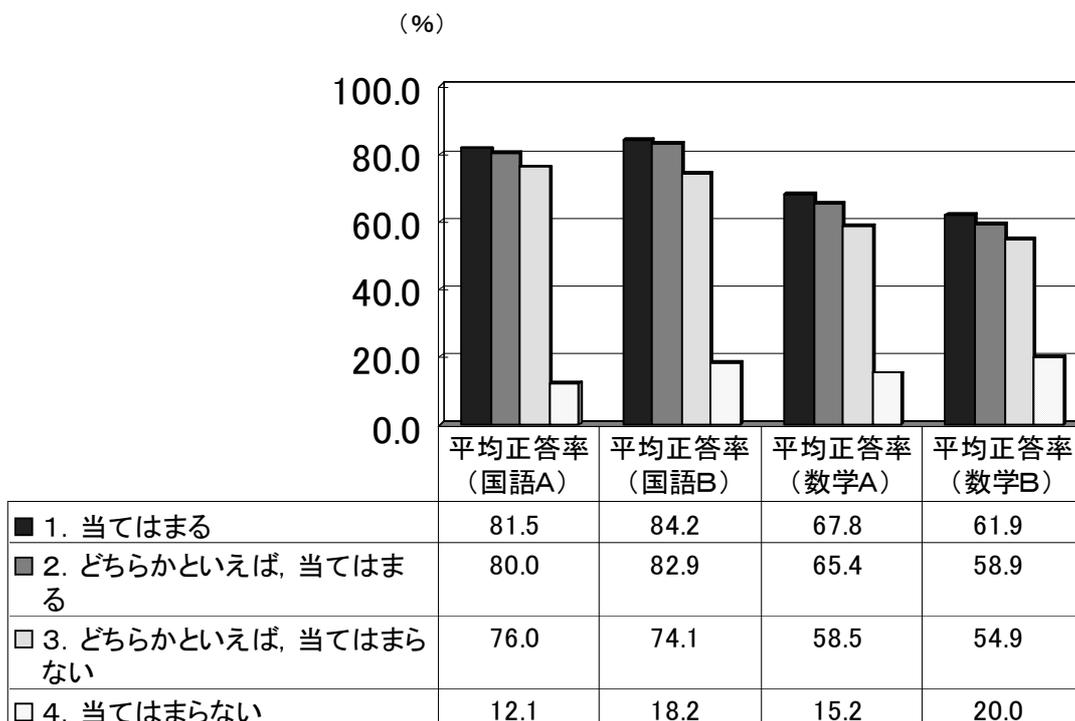
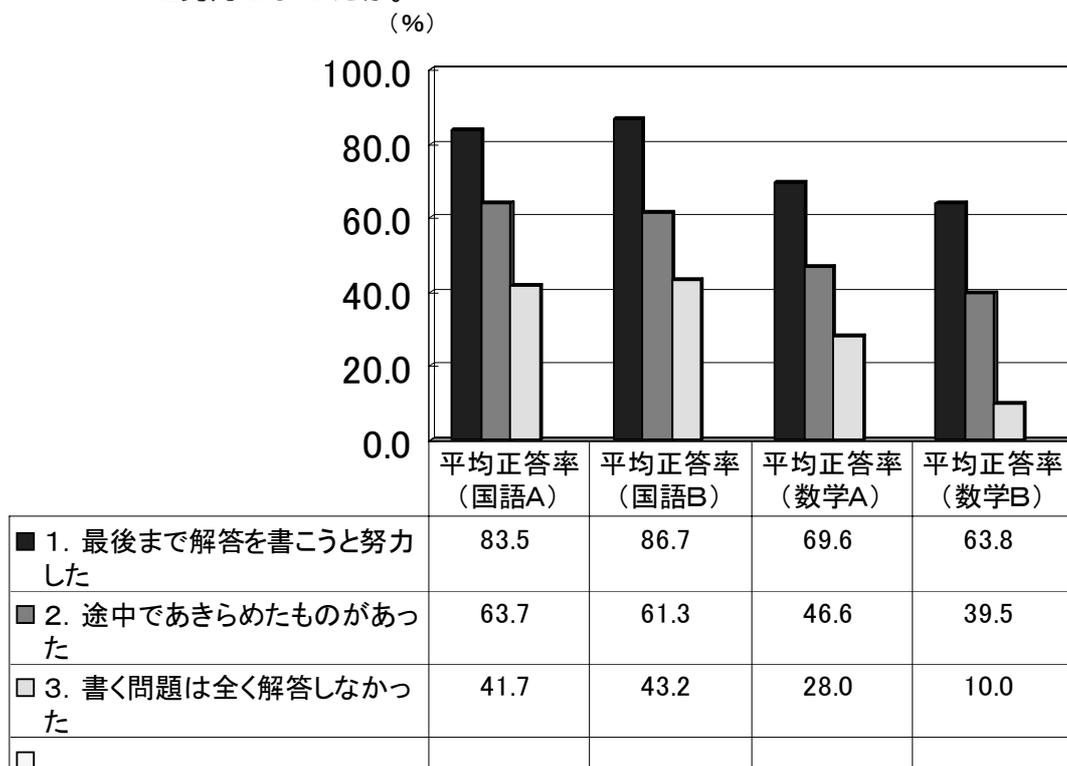


図4 「質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関（中：質問番号62）

質問番号（62）解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか。



IV 改善の方策

ここでは、仙北市全体の状況を踏まえて、一層の確かな学力の向上と課題の解決・授業改善のための方向性として考えられることを示す。

1 全体的な取り組みとして

(1)育てたい力の明確化と授業改善の方向

本調査の教科に関する調査結果で、仙北市の課題として目につくのは、国語、算数・数学に関わらず「書く能力」「記述式」に関わる設問である。昨年、本稿では、「自分の考えを理由・根拠を示して表現する」「概念的枠組みを用いて解釈する」に課題があるとした傾向に類似するものである。

平成21年度の課題としてあげられる第1は、「条件や指示に応じて表現する」ことである。具体的には、次のような設問である。

- ・小国B「設問番号1二」～「目的や意図に応じて事象や意見などを関係付けながら書く」
- ・小国B「設問番号2二」～「自分の立場や意図を明確にして話し合う(記述式)」

第2の課題は、「概念的枠組みを用いて解釈し、説明する」である。具体的には、次のような設問である

- ・小算A「設問番号5(3)」～「……、割合の大小を判断し、その理由を記述することができる」
- ・中数B「設問番号1(2)」～「……、数学的な表現を用いて説明することができる」
- ・中数B「設問番号3(3)」～「……、問題解決の方法を数学的に説明することができる」
- ・中数B「設問番号4(1)」～「方針にもとづいて証明することができる」

第2の課題と直接関わることであるが、中学校数学においては、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」が第3の課題としてあげられる。具体的には、次のような設問である。

- ・中数A「設問番号4(2)」～「作図と線分の垂直二等分線について理解している」
- ・中数A「設問番号6(1)」～「同位角の意味について理解している」
- ・中数A「設問番号8」～「証明の意義について理解している」
- ・中数A「設問番号10(1)」～「……反比例の関係になることを理解している」
- ・中数A「設問番号12」～「……は、直線として表されることを理解している」

第1にあげた「条件や指示に応じて表現する」については、昨年も報告書で述べたとおり、PISA型読解力の「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」のプロセスとも密接に関連するものである。特に「解釈(テキストを根拠に推論して自分独自の解釈を述べる)」「熟考・評価(テキストと自分の知識や考え方や経験を結びつけ自分独自の意見を述べる)」等の能力が高まらなければ改善していかないことである。

現在、県では「読解力を身に付けた秋田の子どもの育成を目指して」をタイトルに、児童生徒の読解力向上を図る施策として四つの柱(取り組みの重点)を打ち出している。とりわけ、柱の「学校教育全体での取り組み-読解力向上のための校内体制の整備・充実-」及び柱の「授業の改善-読解力向上を図る授業実践-」については、各小・中学校とも、自校の実態を踏まえ、意図的・計画的に実践していく必要がある。「考える力」

を中心として、「読む力」「書く力」を総合的に高めていくことによって養われていく「読解力」は、生活や学習で活用することができる力として身に付いていくからである。この「読解力」を高めていくためには、今回課題が明らかになった国語、算数・数学の指導に限らず、国語科を中心としたあらゆる教科・領域の教育活動の中に位置付けた指導が望まれる。

第2にあげた「概念的枠組みを用いて解釈し、説明する」、第3にあげた「基礎的・基本的な知識・技能の定着」については、今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方「知識技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスの重視」と大きく関わる課題である。基礎的・基本的な知識・技能の定着は「活用する力」に必要な思考力・判断力・表現力等の育成の基盤となる。この基盤のもとに「概念的枠組みを用いて解釈し、説明する」学習を積み重ねることは、まさに思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動の一例でもある。

指導要領改訂で総合的な学習の時間が小・中学校ともに縮減されるとともに、時数増となった教科もある。その背景として「教科の知識・技能を活用する学習活動を各教科の中で充実すること」をめざしていることをふまえ、教育課程全体でこれらの学習活動を授業に位置づけて実践していくことが、課題の解決につながるものとする。

(2)個に応じた指導の一層の充実

表17は、昨年度の課題として挙げられた少人数学習に関わる質問事項の年度比較である。これをみると、中学校では習熟の差に応じた少人数学習の授業を積極的に行い、大幅に改善されていることが分かる。また、小学校においても、改善傾向にあることが読み取られる。習熟度の差が大きくなると予想される単元や学習内容については、年間指導計画の中にそれを位置付け、適切なスパンで評価し、習熟の差に応じた少人数学習を進めていくことが重要がある。中学校における継続的な指導は言うまでもなく、小学校においても積極的な取り組みが期待される場所である。

表17 少人数学習に関わる質問事項の年度比較

質問事項	仙北市と全国との肯定的回答率の差(ポイント)			
	小学校		中学校	
	H20	H21	H20	H21
前年度の算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	- 27.5	- 11.4	- 28.5	+ 35.9
前年度の算数・数学の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	- 23.7	- 7.8	- 25.7	+ 38.5

H20・H21で番号が変わっているので質問番号は省略

一つ気になるのは、補充的な学習指導と発展的な学習指導とのアンバランスな特徴がみ

られることである。表18は、小学校における国語・算数、中学校における国語・数学それぞれの補充的な指導及び発展的な指導に関わる仙北市と全国との肯定的回答率との差である。これをみると、小学校では国語・算数とともに発展的な学習の指導に対してよく取り組んでいるが、補充的な学習の指導に対しては全国と比較して十分とはいえない状況である。逆に、中学校においては、国語・数学とともに補充的な学習の指導に対してよく取り組んでいるが、発展的な学習の指導に対しては全国と比較して十分とはいえない状況である。

学習内容や児童生徒の実態を十分に考慮し、補充的な学習の指導と発展的な学習の指導とをバランスよく指導過程の中に組み込んでいくことによって、学習意欲を高め、基礎的・基本的学習の定着と思考力・判断力・表現力等の育成につながり、「活用する力」を高めていくことにつながると考える。

表18 補充的な学習と発展的な学習の指導に関わる質問事項

質 問 事 項	仙北市と全国との肯定的回答率の差(ポイント)			
	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
の指導として、補充的な学習の指導をしましたか	- 11.7	- 0.9	+ 25.9	+ 14.0
の指導として、発展的な学習の指導をしましたか	+ 3.7	+ 2.7	- 30.9	- 15.5

には教科名が入る

(3) 仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策の共有化

「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」では、現在仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策について報告・検討し、仙北市全体で取り組める内容についての意見交換を行った。今後の仙北市の改善策に結びつくと考えられるものを以下に示す。

1 授業改善の視点から

(1) 学習意欲・課題意識に支えられた授業

- ・児童生徒に課題意識を持たせる導入の工夫をする。
- ・「一問一答式」発問からの脱却。多様な考えや課題意識を導き出す発問を吟味する。
- ・児童生徒自身の力で課題解決に向かう、質の高い「学び合い」「ねり合い」を目指した話し合い活動、グループ討議などを重視した授業を展開する。
- ・「結果重視」の授業から「(思考)過程」を重視した授業への転換を図る。
- ・1単位時間の流れ、学習過程がわかる板書構成やノート指導を工夫をする。
- ・T T、少人数学習などの指導形態を工夫するとともに、個々に応じて補足的な学習の指導、発展的な学習の指導を効果的に組み入れた授業を行う。
- ・基本的に45分、50分で完結する授業を行うための構想力・指導力を身につける。

(2) 読解のスキルに係る指導

- ・日常生活の場面から情報収集の対象を広げ、活用する力を養う。
 - ア)時刻表、料金表などさまざまな形態の表・グラフなどの見方、使い方を身につける。
 - イ)身の回りのものの長さ、面積、体積、重さなどの数量的感覚、体感的な感覚を養う。
- ・読み取りのポイントを提示したり、読む目的を明確にしたりして、確実に読み取りができるような指導を積み重ねる。(読み取りの能力を段階的に高める指導)
- ・さまざまな文章に意図的にふれさせ、必要な情報を読みとる力を育成する。
- ・条件に当てはまる答え方、書き方ができるように、いろいろな問題形式にふれた指導を行う。
- ・問われていること、順序を表す言葉、示された条件など、重要な語句にアンダーラインを引くなどの読み取り技能を高める習慣化を図る。
- ・要点やキーワードを的確に聞き取り必要なメモを取ること、また取ったメモから文章を再構成する力を育てる。
- ・文章問題から必要な情報を取り出し、図や式を導き出す力を高める指導を工夫する。

(3) 表現力の育成・言語活動の充実

- ・漢字を含めた語彙を増やし、日常生活で使えるように指導する。また「話型の掲示」など言語環境の充実にも努める。
- ・「テーマに沿った作文を書く」「テーマにあったスピーチをする」などの場の設定や

指導を工夫する。

- ・「根拠を持って」「理由を付けて」自分の言葉で最後まで話すスキルを積み重ねる。
- ・「聞く」「話す」「書く」活動をバランスよく授業に取り入れていく。
- ・自分の考えや思考過程、学習のまとめをノートに書き表す時間を保障する。
- ・学習用語やキーワードを的確に用いた表現ができるようにスキルを積み重ねる。まずは、定型パターンを使った表現の定着から取り組む。

2 全校体制の取り組みの視点から

(1)結果の分析と改善策の計画・実践

- ・分析結果および課題は、全校体制で改善に取り組むべき課題であるという共通認識を全職員が持つ。
- ・課題の改善に向けてP D C Aサイクル（計画 - 実行 - 評価 - 改善）に基づく全校体制の取り組みを実践する。（全校共通実践事項、学年別重点事項の策定・取り組みなど） P D C Aは、「Plan - Do - Check - Act」の略語
- ・秋田県学習状況調査の分析結果と比較検討を行い、改善策について吟味をする。

(2)他の教科・領域等との関連

- ・読解力向上を目指し、思考力・判断力・表現力を養うためには、教科・領域等それぞれの立場で言語活動充実に向けた取り組みを行う必要がある。
- ・教科・領域等の特性をふまえた言語活動の充実を図るための方策を立案し、実践をする。

3 授業以外の学習機会の活用の視点から

- ・読書活動の充実、図書室・図書館利用の促進を図る。
- ・基礎基本の定着、学習の習慣化を図るため、始業前、業間、放課後、休業中等に学習の場を設定し、個に応じた指導への体制づくりを行う。
（ タイム、放課後学習、長期休業中の補習 等）
- ・「学習の手引き」などを活用した家庭学習の習慣化を図るとともに、家庭への啓蒙を行う。特に、休日における学習時間の確保が急務である。

2 学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策

本報告書の「結果」「1 教科に関する調査の結果」「(3)各設問の集計結果から」に示された仙北市の状況の中で、学年・教科・区分について各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるものについては、「平成21年度 全国学力・学習状況調査解説資料」に示されている各設問ごとの「3 学習指導に当たって」を、具体的な授業場面の改善の参考としたい。

「解説資料」は「国立教育政策研究所」HP、TOP > 研究成果・刊行物 > 研究成果アーカイブの「2009年4月22日 平成21年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」に掲載 <http://www.nier.go.jp/09chousa/09kaisetu.htm>。

また、「2009年8月6日 全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校における取組事例集」 <http://www.nier.go.jp/08zireishuu/0908zireishuu.htm>（冊子）及び「2009年8月28日 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例」（パンフレット版） <http://www.nier.go.jp/09jugyourei/09jugyourei.htm> の積極的な活用を図りたい。

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

(1)地域の人材活用

本調査の学校質問紙調査の結果から、仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用について、一層の支援を行う必要がある。

具体的には「小学校設問：地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか（仙北市の肯定的回答の全国比 - 17.7 + 11.5ポイント）」で改善傾向がみられるものの、「中学校設問：地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか（仙北市の肯定的回答の全国比 - 37.9 - 16.6ポイント）」「中学校設問：ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか（仙北市の肯定的回答の全国比 - 18.1 - 18.4ポイント）」という結果が出ている。

仙北市教育委員会では平成20年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民等に対して、「ボランティア保険」の費用を補助するなどの支援をしている。現在「バックアップチーム」への登録者は43名となっており、読み聞かせや図書整理、伝統工芸の学習、水泳指導などで学校をバックアップしている。今後も小・中学校において、授業場面での活用や授業サポートとしての活用を行い、事業を充実させていく必要がある。

(2)学校図書館・室の充実について

昨年度の本稿でも指摘した「学校図書館図書標準が達成されていますか」の質問に対して、仙北市の達成している学校の割合は、小学校においては大幅に改善されている。しかし、中学校はほぼ全国並みに改善されてはいるものの、十分とはいえない状況である。

具体的には「中学校設問：学校図書館標準が達成されていますか（仙北市の肯定的回答の全国比 - 42.9 - 3.8）」となっている。市内全小・中学校の基準達成に向け

て、学校図書館の蔵書充実のための施策を継続する必要がある。

表 1 9

※公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたもの

学級数(小)	小学校で整備すべき蔵書の標準	学級数(中)	中学校で整備すべき蔵書の標準
1	2,400	1 ~ 2	4, 800
2	3,000	3 ~ 6	4, 800 + 640 × (学級数 - 2)
3 ~ 6	3,000 + 520 × (学級数 - 2)	7 ~ 12	7, 360 + 560 × (学級数 - 6)
7 ~ 12	5,080 + 480 × (学級数 - 6)	13 ~ 18	10, 720 + 480 × (学級数 - 12)
13 ~ 18	7,960 + 400 × (学級数 - 12)	19 ~ 30	13, 600 + 320 × (学級数 - 18)
19 ~ 30	10,360 + 200 × (学級数 - 18)	31 ~	17, 440 + 160 × (学級数 - 30)
31 ~	12,760 + 120 × (学級数 - 30)		

例えば、小学校で18学級の場合……………10, 360冊

例えば、中学校で15学級の場合……………12, 160冊

4 学校・家庭・地域の一層の連携

確かな学力の向上のためには、「基本的生活習慣」や「基本的学習習慣」の基盤の上に「学びのサイクルの習慣化」が必要である。これは授業を核として、授業日の家庭学習や長期休業中の学習、学校の始業前や放課後の学習が結びつけられ、関連し合って児童生徒の学びの機会が習慣化されていくことである。そのためには、学校・家庭・地域の一層の連携が必要である。

本調査の学校質問紙調査では、「中学校設問：国語の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか（仙北市の肯定的回答の全国比 - 30.9 - 29.8）」という改善のみられない結果が出ている。「学びのサイクルの習慣化」のためには、学校から家庭への働きかけを含めて一層の連携の推進が必要である。

一方、家庭では子どもの基本的生活習慣や学習習慣などに関心をもち、学校と協力して一層望ましい姿になるよう家庭教育を充実させることが望まれる。具体的には、小・中学校の課題として挙げた「設問：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の結果で見られるように、学習する児童生徒の割合がわずかながら減少、逆に全く学習しない児童生徒の割合がわずかながら増加している。

放課後におけるスポ少活動や部活動との関係もあるが、児童生徒が就寝までの限られた時間の中で、学習時間を確保できるよう家庭内でも協力していくことが望まれる。

仙北市の子どもたちは地域に対する愛着が深く、地域生活において多くの望ましい傾向がみられることは、地域住民の支えが大きく影響していると考えられる。この点からも、これまで以上に学校・家庭・地域の連携を一層深めることが重要であると考えられる。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日
教育委員会告示第19号

(目的)

第1条 この要項は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1)教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2)本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3)本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4)本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5)本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1)「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2)「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係について

も併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。

- (3) 「別表 1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (4) 「別表 1」の「4」については、公表する。
- (5) 「別表 1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6) 「別表 1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第 4 条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会教育研究室「算数・数学学習指導研究委員会」及び「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

(結果の公表の方法)

第 5 条 第 3 条に示す公表の内容及び第 4 条に示す改善策は、仙北市教育研究室において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第 6 条 仙北市情報公開条例第 7 条 6 号を根拠として第 3 条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成 19 年 12 月 20 日から施行する

(別表1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第3条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「四分位層」...成績の上位から25%のきざみで4つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表2)「(別表1)の1及び2の公表に係る階層区分と表現」(第3条関係)

	階 層 区 分	表 現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+5.9%以下～-5.9%以上であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が-6%以下であるもの	改善が必要な状況

資料2 平成21年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿

役員氏名	備 考
委員長 入江 清一郎	教育研究室 国語学習指導研究委員会委員長 (教育研究室総合教育アドバイザー)
副委員長 佐藤 心一	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員会委員長 (西明寺小学校長)

委員氏名	備 考
井上 裕子	教育研究室 国語学習指導研究委員 (角館小学校)
佐藤 知栄美	教育研究室 国語学習指導研究委員 (中川小学校)
高橋 悦子	教育研究室 国語学習指導研究委員 (白岩小学校)
伊藤 里実	教育研究室 国語学習指導研究委員 (生保内小学校)
鈴木 真紀子	教育研究室 国語学習指導研究委員 (神代小学校)
藤峰 芳子	教育研究室 国語学習指導研究委員 (西明寺小学校)
橋本 優子	教育研究室 国語学習指導研究委員 (桧木内小学校)
小笠原 直子	教育研究室 国語学習指導研究委員 (角館中学校)
青池 研悟	教育研究室 国語学習指導研究委員 (生保内中学校)
佐藤 義紀	教育研究室 国語学習指導研究委員 (神代中学校)
清水 靖	教育研究室 国語学習指導研究委員 (西明寺中学校)
佐藤 有紀	教育研究室 国語学習指導研究委員 (桧木内中学校)
小林 千春	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (角館小学校)
板垣 涉	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (中川小学校)
藤島 宏明	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (白岩小学校)
星野 友実	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (生保内小学校)
佐々木 潤一	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (神代小学校)
柳田 健	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (西明寺小学校)
千葉 仁	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (桧木内小学校)
木村 光紀	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (角館中学校)
齋藤 明	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (生保内中学校)
小松 朋子	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (神代中学校)
赤川 嗣昭	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (西明寺中学校)
高橋 範幸	教育研究室 算数・数学学習指導研究委員 (桧木内中学校)
井上一彦	学校教育課 教育研究室 室長